

◎ 2015/10/13 22:22

ネット依存どう防ぐ 神戸で教育関係者ら対策セミナー



ネット依存傾向の子どもに、親や教師ができることなどを話し合ったトークセッション＝クリスタルホール



スマートフォンなどインターネット依存の防止対策セミナー（兵庫県主催）が13日、神戸市中央区東川崎町1のクリスタルホールで開かれた。教育関係者ら約280人が参加。講演やトークセッションを通じて、大人ができることを考えた。

県は今夏、県内小・中・高校計28校の約3千人にアンケートを実施。全体の6・4%について「インターネット依存の疑いがある」との結果が出た。

中でも高校生の8・3%が依存疑いとされ、4人に3人が女子。小学生は1・4%ですべて男子だった。

アンケートなどを踏まえ、教育機関や警察機関の代表者ら4人がトークセッションを展開した。

県立大学付属高校の今井佳代子養護教諭は、ネット依存傾向の生徒との関わりを挙げながら、「生徒の話を聞き、2人で対策を考えることが大事」。神戸東部少年サポートセンターの湯朝大輔所長は「正しいことと間違っていることを少しずつ分からせないと」などと話した。

また、2011年に国内初のネット依存治療研究部門を開設した久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）の樋口進院長が講演。症状やこれまでの治療例を紹介した。

樋口院長によると、患者の8割は中・高・大学生で、成長期のネット依存は正常な発達を阻害する恐れがあるという。「辞めることは無理」とし「減らすために、押しつけではなくサポートが重要」とアドバイスした。（坂山真里緒）